

金山町 議会だより

第195号

平成28年11月8日

発行 金山町議会

編集 議会だより編集特別委員会

〒968-0011

福島県大沼郡金山町大字川口字谷地393

☎ 0241-54-5341



天然の沼沢湖産ヒメマスが提供された
「姫マス元気印！」イベント（9月10～11日開催）

〔9月定例会のあらまし 会期／9月9日～14日〕

（ページ）

9月定例会 平成27年度決算を認定、補正予算、人事…	2～6
一般質問に9人登壇	7～15
常任委員会の管外視察報告	16～17

歳入37億 歳出35億

(一般会計)



せせらぎ荘の工事を確認する監査委員

9月定例会は、9月9日から14日にかけて開催されました。平成27年度決算認定のほか7議案と、報告2件、議員提出議案1件が提案され、平成28年度一般会計補正予算(第6号)を除き、原案の通り認定・可決・同意されました。一般会計の決算は昨年から比べ歳出で約3億円の減額になっています。一般質問には9人の議員が登壇し、町政をたどしました。

決算(議案審議)

歳入

滞納繰越

これで良いのか 特別チームで対応

納整理チームに金山町も参加しました。県職員の指導を仰ぎながら、現在、滞納整理、預金等の滞納処分(差押え)を含めながら実施しています。

豪雨災基金

住宅再建に

約4億3千万円

只見川豪雨災害復興基金の繰入金、県から9億円が交付されたが住宅再建支援にどれぐらいの金額が充当されたのか。

復興政策課長 約4億2615万円です。

歳出

大塩地区の建物 屋根と柱だけ

大塩地区公衆トイレ 整備2484万円。この事業の中でつくられた同一敷地内に「屋根と柱だけの建物」がある。何のためにつくられたのか。

産業課長 トイレ利用者のための休憩施設と、

特別会計

歯科外来 収入アップ

歯科外来収入、アップした理由についてお伺いします。

町長 「このままでは金山町の歯科医として立ち行かない」という話をしました。そして、「とにかく向上するような方法を考えていただきたい。一番は歯科医と患者さんの信頼関係だ」というような話し合いを持ちました。

住民課長 診療の中でレントゲンを撮る回数が増えたことで、診療報酬が増えたと理解します。

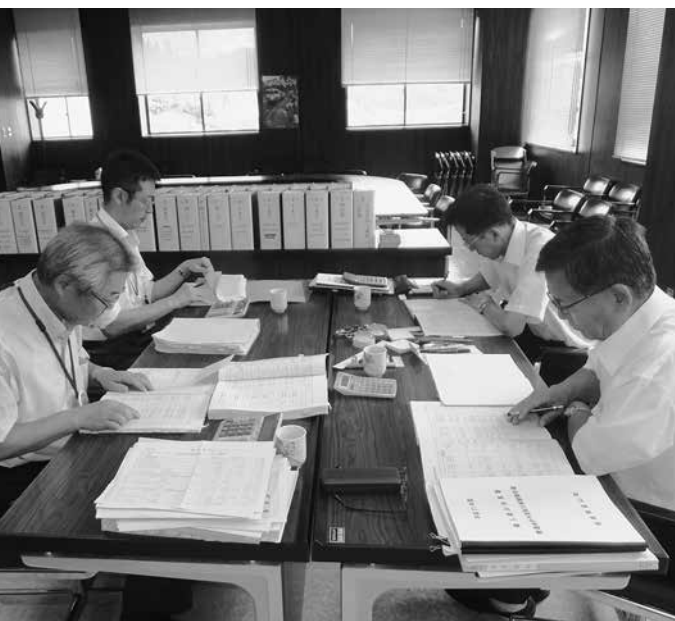
平成27年度決算審査意見

8月18日から4日間行われた、決算審査における監査委員の意見を要約してお知らせします。

情報の共有で 堅実な事務執行を

少ない職員で、多くの事業をこなしていることに敬意を払います。しかし、職員間の意思疎通がうまくできていないように感じました。申請書類の作成の仕方であったり、各種税等の収納対策のノウハウであったり、各職員が情報

を共有できないために、申請が遅れたり、未納になったりするケースが散見されました。職員それぞれの個性があり、一概にマニュアルを作れば済むという問題では無いと考えます。その時、その時の状況にあった対応をすることを、日ごろから職員が一緒になつて考えていく組織になることを望みます。



決算審査の様子

効果の出る 収納対策

昨年度より滞納者が増加しています。引き続き滞納者を出さないよう、滞納額を増やさないよう、収納率向上対策本部などの機能を活かし収納対策に取り組んでください。また、多額の滞納繰越額の解消に向けて効果のする収納対策にも引き続き取り組んでください。

活かされる 補助金交付

補助金交付においては、補助金が目的に沿って最大限活かされるよう補助団体の動向を注視し、事業執行中であつても適切な指導を行うなど補助金の効果が最大限発揮できる指導体制を作つていただきたい。

施設の利用計画 明確に

利用実績の少ない施設等が散見されますが施設等の整理が進んでいないように見受けられます。

平成27年度 一般会計及び特別会計の決算

会 計 名	歳 入	歳 出
一般会計	37億4,571万円	35億3,670万円
国民健康保険事業勘定(医療費)	4億6,323万円	4億772万円
国民健康保険事業勘定(診療所)	1億3,010万円	1億3,010万円
簡易水道事業	2億4,308万円	2億2,587万円
町営バス事業	1,413万円	1,413万円
農業集落排水事業	445万円	445万円
介護保険	5億867万円	4億9,643万円
特定地域生活排水処理事業	1億5,022万円	1億5,022万円
後期高齢者医療	4,520万円	4,514万円
特定環境保全公共下水道事業	2,825万円	2,825万円

「住んで良かった」と言われる行政を

最後に、只見川河川整

利用計画を明確にして適切な判断により対応いただきたい。また、長期的に借り上げている「土地や絵画等」については買取など再考すべき時期に来ていると考えます。

備への積極的な関与・移住定住の推進・子育て支援等々、喫緊に進めなければならない事業が山積しています。少ない職員で各種事業を進めることは大変です。しかし、町民や町民予備軍は町職員が頼りです。「住んで良かった」と言われる行政を望みます。

実質公債費 比率の推移

平成27年度 2.9

26年度	3.5
25年度	4.4
24年度	6.1

※「実質公債費比率」とは、標準財政規模に対する公債費(町の借金返済額)の比率です。低い方が健全であることを示しています。

主な投資的事業

- 保養センター改築事業 2億2,862万円
- 町営住宅建設事業 7,583万円
- ラジオ中継局関連事業 7,246万円
- 大塩地区公衆トイレ整備事業(用地代等含む) 2,996万円
- ポンプ車購入事業 2,002万円

■ 議案等審議結果一覧

※議長は、採決に加わりません（賛否が同数の場合には議長が採決します）

※賛成「○」 反対「×」

件名	議決結果	栗城康太郎	青柳ヨシ子	加藤賢享	黒川廣志	奥高伸	横田正敏	高橋信彦	五ノ井義一	馬場清次
■第5回臨時会 平成28年8月10日開催										
平成28年度金山町一般会計補正予算（第5号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
契約の締結について （水道施設 太郎布ポンプ場増築工事）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
■第6回定例会（9月定例会） 平成28年9月開催										
決算の認定について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
金山町税条例の一部改正について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
金山町ひとり親家庭医療費の助成に関する条例の一部改正について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成28年度金山町一般会計補正予算（第6号）	修正可決	※減額予算の修正案が議員提案され、以下のように修正可決されました								
上記 修正案 （大塩地区炭酸温泉試掘関連予算を減額）	可決	無記名投票により採決（賛成5票・反対4票）								
上記修正部分を除く補正予算（第6号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成28年度金山町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成28年度金山町簡易水道事業特別会計補正予算（第2号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成28年度金山町介護保険特別会計補正予算（第2号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
金山町固定資産評価審査委員会委員の選任に関する同意について	可決	無記名投票により採決（賛成9票・反対0票）								
■陳情（9月定例会で採択されました）										
地方財政の充実・強化を求める意見書提出の陳情	採択	○	○	○	○	○	○	○	○	○
■議員提出議案（9月定例会で可決され関係機関に送付しました）										
地方財政の充実・強化を求める意見書の提出について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
■報告（9月定例会で報告されました）										
地方公共団体の財政の健全化に関する比率の報告について										
株式会社社会津かねやま経営状況報告について										

9月定例会に提案された、一般会計補正予算（第6号）は、議員から修正案（大塩地区の炭酸温泉試掘関連予算の減額）が提出され採決の結果、可決されました。修正案の提案理由及び討論を掲載します。

議員提案で
補正予算を
減額修正

■ 人 事

▼固定資産評価審査
委員会委員

若林 豊昇氏

（再任・福沢・67歳）

を選任することに同意しました。

任期は12月17日から3年間です。

■町提出の補正予算案に賛成の討論

馬場 清次 議員

ただいま五ノ井議員から修正動議の提案がされております。今、動議の提出者から、町が提出された予算案原案について修正の内容が説明されました。私もその内容をお聞きして、当然町がもう少し町民に対し理解を得られる形で説明されていれば、修正なくして賛成される場合もあるかと思いました。その中身についてはやはり現存する大塩温泉、これらについての不安についても修正の内容の中で説明がございました。これは地区民としては当然理解できる意見であります。ただ、私も今議会において町が提出されたこの補正予算について、質疑の中で伺ってまいりました。その内容については町長、そして担当課長から、私が伺った内容では理解を得ることもできる答弁であったという考えから、私はこの町が提出された予算案について賛成をいたします。

■町提出の補正予算案に賛成の討論

高橋 信彦 議員

この委託料についての問題は、今議会で多くの時間を割いて議論をされてきました。昨年、事前調査について町の議会は承認をしております。その調査の結果を受けての試掘ということでありますので、私はこの原案には賛成をいたします。

現在、金山町には多くの温泉があり、金山町は温泉の町である。そしてまた、炭酸の町であるというような前評判も高くあります。しかし、この炭酸が現状をしつかりと調査しますと、以前の調査のようにはなかなか含有量が出てこないというのが現状であります。現町長は炭酸の町を今後大きくうたてたいという基本姿勢があり、それには私も同調いたします。よって、このまま炭酸の含有量が少ないまま、炭酸の町だ、炭酸の町だというよりは今回試掘をし、結果はどう転ぶかわかりませんが、かなりの確率の高いところであるだろうということでありますので、それに期待をし、試掘には同意をしたいと思います。

各議員がおっしゃるように、金山町は高齢化の町であります。しかし、その高齢化した町を支えるのは若者であります。したがって、その若者が将来において、この町内に職場を得、生活し税金を納め、高齢者を支えることができるようなしっかりとした金山町に望みを託し、この本案件には賛成をいたします。

■町提出の補正予算案に賛成の討論

栗城康太郎 議員

近隣他町村との違いや独自性を明確に打ち出す必要があるのではないでしょうか。幸いなことに我が金山町には豊富な地域資源がございます。ヒメマス、天然炭酸水、豊富な温泉それらに磨きをかける、それも当然必要なことだと思います。しかしながら、いま一つインパクトに欠ける、情報発信性のある資源を開発する、それが必要ではないでしょうか。今予想されているような高濃度の二酸化炭素を含んだ温泉、これが湧出すれば、それこそ黙っていても全国にその情報は発信されます。

そして、試掘をした結果、湧出した状況でもすぐに町で膨大な予算をかけて、せせらぎ荘のような設備を整備するというのではない（手湯、足湯、そういうような身の丈に合った施設）というふうに私は聞きました。

また、進出を検討している企業があるとも伺っております。それはまさに雇用の創出と若者の定住につながるものであります。さらに、観光を核とした産業の6次化、観光の活性化による地場産品の需要拡大、それによる1次、2次産業の活性化、これこそ点から面への展開であります。この機会にぜひこの試掘をして、結果わかりませんが、私も、チャレンジをする。それはこれからの町の発展にとって、まさに必要だと、私はそう思います。私たちは未来の町民に未来の子供たちに財産を残す義務があります。今まさにその財産を我々には手に入れるのか入れないのか、その分かれ道に立っています。我々は未来の子供たちに責任があります。その試掘にかけてみようではありませんか。



午後3時30分頃の川口駅前の様子
この風景がどう変わるか「交通体系の一元化」



五ノ井義一議員の 一般質問

『町長公約の町内交通の見直しについて』

町民の利便性を第一に

問 乗合タクシー等検討委員会の実績は。また、庁内での検討状況をお聞かせください。

答 町長 乗合タクシー等検討委員会は、地域における乗合タクシー等のサービス実現に必要となる事項等を協議いただくことを目的に、利用者等の意見をお聞きし、地域の必要

に応じた適切な形態及び料金などについて協議しており、毎年度末に開催しています。交通体系の見直しについては、町営バス、乗合タクシー、スクールバス、そしてJR只見線の代行バス、会津バスの公共交通機関が町内で運行している中で、町民の皆さんがより利用しやすい交通体系

をもとに、複雑な金山町の地形の中で最も効果的に有効的に移動ができる交通体系を具現化したいと考えています。

問 プロジェクトチームに対して、町長からはどのような指示をしたのか。

答 町長 プロジェクトチームで、まず自分たちで、どういう方法がいいのか、これを考えていただいて、その結果を私のほうに示していただくという段取りになっています。一度その経過について報告がありましたが、それで決まったということではなく、まだまだ難しい問題が様々あります。

を巡るため、役場内のプロジェクトチームが検討を重ねています。このプロジェクトチームの検討結果

問 庁内にプロジェクトチームのメンバーがあるとお聞きしました。メンバー構成と実施回数を教えてください。

答 総務課長 副町長を筆頭に、総務課長、出納室長、住民課長、復興政策課長、教育次長がメンバーです。今までに6回実施し

問 土曜、日曜、祭日の運行については。

金山町議会だより

『土砂置場はどうする』

関係機関と協議していく

問 今後予想される各種工事に伴う土砂置場等の問題、激甚災害指定された農地の特例解除等の条件はあるのか、ないのか。

答 町長 今後大量の土砂の発生が予想され、その置き場が決まっていない状況です。候補地として「農地をかさ上げしたらどうか、沢を埋め立てたら良いのでは」と様々な案が出ていますが、どの場所についても関係手続が複雑で容易ではありません。所有者の同意が大前提で

ですが、特に国の補助事業で造成した農地の場合は、一定の期間が過ぎるまでは補助金の返還問題が出てきます。農地に土砂を置くことについては、福島県と協議していますが、補助金を返還しなくてもよい条

件などについては、「事業計画を作成し個別に協議していないかと判断がつかない」という回答をもらっています。今後も土砂置き場問題については、福島県や発電事業者等とともに検討していきます。

金山町産エゴマの生産拡大及びえごま油摂取に関する

(目的)

第1条 健康とは健体と健脳を意味するが、動くことは万能の
に、食は健康の基本であり、医食同源や身土不二の食の原点に
活をすることが必要である。油脂は生体機能の根本を支える
るばかりでなく、血圧調整や免疫力の増強、頭の働きなど、重
要な働きを担っている。

そこで、高齢化が進む本町では、医療費や介護保険の給付
る現状まえ、高齢者が介護を必要とせず、健康な日常生活が
め、町の特産品の一つの油脂であるエゴマの生産拡大を図り
食事に積極的に摂取することを奨励し、健康寿命の延伸に
るべきこととし、この条例を制定する。

横田議員の提案した「エゴマ条例」

本文には「生産拡大や摂取」の文字が

横田正敏議員の

一般質問



『人口減少に伴う課題の解決について』

着実に取り組んで行きたい

問 30行政区の内、相当の行政区が自治機能を維持することが困難になることは、容易に予想できる。町政は先を見据えて進めるべきであり、従って町は、「各行政区を将来どのよう

答 町長 高齢化や人口

の減少により、集落の機能が低下していることは町としても認識しており、地域でも感じていると思います。直面する問題の困難さに、地区としても目を背けがちになっていること

問 少子化対策は、結局は若者定住である。若者定住を考えた時、地域おこし協

力隊が終了後、定住に結びつけるために積極的に取り組むべきではないか。

答 町長 地域おこし協力隊は、活動終了後にその地域に定住することが制度の狙いの一つであり、都市から地方への若者定住につながる有効な手段と認識しています。町では、定住に向けて隊員からの相談に応じたり、必要に応じて助言を行ったり、起業に役立つ資格取得への支援を行うなど、隊員が安心して定住できるようサポート

た。建設業については、特殊工事を除き、町発注工事指名競争入札により町内業者が落札できるよう配慮しています。また、就職時に必要な資格取得の助成も始めました。さらに、地元企業への若者就職を目的として、川口高校において町内企業の就職説明会を行っており、9社の参加で実施しました。まだまだ必要なことはあると思いますが、少しずつ着実に取り組んで行きたいと考えています。

『いまこそ「えごま油摂取推進条例」の制定を』

しかるべき後に制定して行きたい

問 町の特産物であるえごま油が脚光を浴び、全国的にも国内産が不足しているのは、えごま油が高齢者の健康維持に有効であると言われ、厚労省も摂取を奨励しているからであ

答 町長 えごま油の摂取は、町でも医療費を抑制し健康寿命を延ばし、「健康長寿の町金山」の実現を目指し、えごま油の摂取を奨励するための条例を制定する考えはないか。

取は老化や血管の若返り、認知症に効果があると

せはもちろん、医療費や介護保険の抑制にもなり、町財政の健全化にもつながる



もうすぐ雪の季節を迎える
除雪対策が急がれる



加藤賢享議員の 一般質問

『高齢者の除雪支援について』

対策を進めている

問 3月の一般質問から6カ月たちました。高齢者の除雪対策・支援について具体的にどう取り組むかを聞かせてください。

答 町長 自助、互助、共助、公助による地域の支え合いを基本とした中で、現在町の社会福祉協議会が実施している高齢者の一人暮らし世帯を中心とした除雪支援事業への補助を引き続き実施していき

ます。また、排除雪設備整備事業の対象事業等の拡充を検討しています。さらに、町内の建設業者と各地区の除雪組合と、高齢者等世帯の除雪対策について話し合いを持ちたいと考えています。

問 社会福祉協議会等との対策会議が行われたかお聞かせください。

答 住民課長 現在は直接協議はしていませんが、今後、毎月民生児童委員協議会の定例会等ありますので、そういう機会を捉えて話し合いを持ちたいと

思います。

問 6カ月もたっているんですよ。今まで二回も話がなかったと。やる気あるんですか、無いんですか。

答 住民課長 係内では、排除雪設備の整備事業の対象事業を拡充したいという検討もしています。また、前年度、社会福祉協議会の除雪事業に対する補助対象に各地区の除雪組合が該当できないか、町のほうから働きかけをして、全地区ではありませんが、対象になったということ

で、少しずつですが、現状維持ではなく前に進んでいます。

問 我が大栗山、私は区長もやっていますけれども、この予算ではとても部落費が底をついちゃうというようなことで、役員会を開きました。その時、「部落費を上げようじゃないか」というようなことでありましたが、我が部落は、「いや、上げる前に我々からゼロにしよう」ということで、役員手当をゼロにしたんです。だから、私は本当に町に予算が無かったら、これだけお年寄りが苦しんでいるんだつたら、じゃ、何とかしなきゃならない。そういう気持ちで「議員日当制」。これは絶対曲げることはできません。私一人でも頑張るつもりです。そういう気持ちです。ですから、ぜひ行政に、そういう補助金が出るような力をかりたい。協力してください。

答 町長 やはり困っている方が増えるわけですから、それぞれに対して目配りと気配り、心配りをしながらやって行きたいと思っています。

『簡易水道未普及地区の解消について』

地区の事情にあった方法で

問 町内に6箇所未普及地区があるとのことですが「早く何とかして欲しい」と言う地区があります。町はこの声にどう取り組むか伺います。水沼の舟場

地区は消火栓もありません。町は安心安全と言っています。玉梨の湯ノ上地区もそうです。水は生命をつなぐものです。この対策を取り組んでいただきたい。

答 町長 同じ町民でありますから、どこに住んでいるのも同様の恩恵が受けられる公平な行政を心がけなければいけないと思います。地域、地域の事情

が違いますから、この地区には何が合っているのか、そういうことを考えながらやっていく必要があると思いますので、頑張ってください。



寒い季節を迎え
暖房には欠かせない「灯油」

青柳ヨシ子議員の 一般質問



『福祉灯油の実現を』

来年度に向け検討

問 福祉灯油の早急な実現を求めます。間もなく寒い冬がやってきます。お年寄りが安心して冬を暖かく過ごせるように、福祉灯油を実現してください。

答 町長 町ではシルバーユニットピア構想のもと、高齢者等世帯に限定した排除雪設備整備事業への補助、バス利用補助、敬老祝いの支給など、「幅広い高齢者福祉政策」を展開

してきました。これからもこれらの事業を継続するとともに、健康づくりや福祉施策を実施することにより、町民全体の福祉の向上に努めて行きます。

問 格差社会で貧富の差はますます広がるばかりです。金山町は雪と寒ささえ何とかなれば、豊かな自然に囲まれてとても住みやすいところだと思つて

年寄りがたくさんいると思いますので、ぜひとも、ささやかではありますが、温かい心のおもいやりをもつて、一人1万円の福祉灯油をぜひ実現してほしいと思います。

合わないかもしれませんが、先ほどから高齢者の問題は随時出ていますから、思いやりを持った施策を心がけるような話し合いを持ったところです。来年度に向けて、どの程度できるか検討します。

『只見川豪雨災害について』

総合的な対策が必要と考える

問 発電専用の利水ダムだと言うが只見川にあるダムの総合的な安全対策を取るべきだと思う。60年

域全体の治水対策を考える必要があります。各ダムにたまる土砂についても、たまつた土砂を取るだけでなく、只見川全体を考えた、中小河川から流入してくる土砂の量を減らすなど、総合的な取り組みが必要と考えていますし、そのような要望も行っています。また、議員がおっしゃるように、二度と水害が起きないように事業者としての役割を果たしてもらうことは当然です。町とし

では、各ダムにたまる土砂の排除を徹底するよう、金山町洪水対策協議会や通常の協議を通して要望を行っています。

時点で再考したいと考えています。

問 地権者の理解（用地交渉等）を得るためにこそ2名職員をつけることが肝心ではないですか。

答 町長 地権者との交渉事は県で行っています。県で町に、「どうしてもこの人には町もひとつ出てもらつて話してもらわない」と中々解決がつかない」ということであれば、町も応援、どんどん出て話し合いに応じるつもりです。

答 町長 金山町にあるダムは主に発電に利用され、治水機能がほとんどないダムです。したがって、洪水を起こさないようにするために、只見川上流の大きなダムも含めた流

きだと思っています。

問 被災者を早急に救済するためには、速やかに担当職員を二人付けて、きめ細かな対応を図るべきだと思っています。

答 町長 専従職員2名の配置については、現時点では考えていませんが、今後、各地区の対策（河川整備）が具体的になった

『老朽化し、大量に土砂を貯めたダム撤去の申入れを』

河川整備計画の実施を優先

黒川廣志議員の 一般質問



非出水期になり、工事が再開された
本名ダム「道流壁工事」

問 七・二九ダム災害から五年経過した。以下見解を伺う。

問① 大量の土砂を貯め、築後60数年の老朽化したダムは河川法44条の河川の従前の機能の維持ができず、ダム災害が発生した。

れないものがあります。自然的要素とダムの人工的要素などが影響し合い、総合的に災害が発生するものであると考えており、この災害を一概にダム災害と呼ぶのは無理があると感じています。金山町としましては、被災の原因究明に時間を割くことよりも、被災者の立場に立ち、一日も早い復旧を選択しました。したがって、ここで改めてその議論はせず、自然災であるという認識のもとお答えします。

問② 河川整備事業の整備目標流量より全てのダムの設計洪水流量が小さく整合性がない。

答 町長 ダムに整備目標流量が流れたとしても、ダムを越流することなく流下しますので問題はないと考えています。今後ダムの改造等を行う際は、河川整備計画と整合性のあるダムに改造さ

れると認識しています。
問③ 東日本大震災時の須賀川市藤沼ダム決壊、熊本地震時の九州電力黒川第一発電所貯水槽決壊で下流の住民が犠牲になった。台風10号では岩手県岩泉町の高齢者（弱者）が犠牲になった。流域の高齢化が進む中で階段状に設置してあるダム群について。

答 町長 水力発電は火力、原子力とは異なるクリーンなエネルギーであり、風力、太陽光にない安定したエネルギーであることから、その価値が見直されるべきと考えています。

問⑤ ダムができる前は魚類も豊富で生活の支えであった。鮭立の地名も、その由来と聞く。人工構造物のない自然な流れの只見川を取り戻し、安全・安心の町づくりのためにダム撤去の申し入れを。

答 町長 ダムの決壊は住民の生命を脅かす危険なものではありませんが、ダムが洪水を防ぎ人の命を守っているという考え方もあります。また、只見川のダムは電源開発に特化した階段状のダムであり、住民の生活、環境に配慮が欠けているというご指摘も承知しています。

問④ 熊本県の荒瀬ダム撤去工事中。老朽化したダムは流域住民の安全を脅かす危険な建造物だ。省エネ開発や太陽光発電等へ転換する時期だ。

答 町長 ダムのない自然な流れを取り戻し、安全・安心を目指すことは理想ではありますが、何分時間がかかります。当面は住民の安全・安心に直結する河川整備計画の実施に向け、前に進んでいきたいと考えています。

問 再度ですが、ダムの撤去の申し入れ、伝えていただきたい。
答 町長 電気事業者のみ



▶笹堀ダム改造工事の説明を受ける町議会（産業建設常任委員会）



多くの人が訪れた
「奥会津ごっつおまつり」

栗城康太郎議員の 一般質問



『町長就任2年間の総括と今後の方針について伺う』

町に愛着と誇りを感じる町政運営

問 町長は就任後まもなく2年が経過しようとしています。着手できなかった事業、達成しなかった事業があればそれに対する問題点、課題の対策、今後の方針を説明してください。また、残りの約2年間の任期の先にどのような町の姿を描いているのかについて伺います。

問① 4年間の任期の半分を経過した。2年間で

どう総括するか伺います。
答 町長 行政の継続性に十分配慮しながら、公約に掲げた住民が主役のまちづくりを目指し、各行政区におけるまちづくり懇談会を始め、各種団体の総会や協議会、地域における集会などに出席し、町民の皆さんのご意見を伺って、

町政に反映できる部分は積極的に取り入れてまいりました。就任当初から申し上げてきたように、金山町にとつて最大の課題は、少子高齢化の急速な進行です。この高齢化問題については、町民の皆さんが年を重ねても健康を保ち、いつまでも元気に暮らし続

けられることを目標として、様々な取り組みを進めてきました。この2年間で町の抱える課題に打つべき手は打ってきたと考えています。

答 町長 継続すべき部分は継続し、改革すべき部分は積極的に改革することを基本に、町民の皆さんが町に愛着と誇りを感じ、来訪者には再び訪れたいと思われるような一流の田舎を目指し、町政運営に当たってまいります。

『町の観光行政について』

イベントを楽しんでもらう

問 町長は「道の駅や観光物産協会など関係機関とも連携しながら、観光資源のさらなる磨き上げに力を挙げてまいりたい」と述べておられます。イベントも観光資源の一つであると思えますので、以下の点について伺います。

問① イベント開催の目的は何か。

答 町長 多くの町民に参加していただき、イベ

ントを楽しんでもらうこと。そして各イベントの魅力を外に発信し、多くの方に町に来ていただくことを主眼としています。

問② 民間団体との連携は具体的にどのような状態なのか。

答 町長 金山町観光物産協会については、実行委員会主催する町内イベントに事務局として参画

していることから、共同でイベント運営に当たっています。また、事務所のJR会津川口駅前移転に合わせ、JR利用者の観光地周遊運行事業を委託していま

す。(株)会津かねやまについては、町の玄関口である道の駅において観光客の観光情報案内等を行っていたいただいています。このほか、町外での物産販売、観光PRイベントでは、多くの民間団

体にも協力をしていただき、町の魅力を発信しています。

問③ 次年度につなげるための結果の検証はしているか。

答 町長 各実行委員会での意見、各イベント担当からの意見、イベント参加者からの意見などを集約し、改善が必要と判断したものについては、次年度のイベントに反映させていきます。



おいしさを保障するシールが
張られた「奥会津金山赤かぼちゃ」



高橋信彦議員の 一般質問

『金山赤かぼちゃ』の振興について

まずは、ブランドの確立

問 糖度計の導入により、品質は格段に向上しているが、一方で不合格品の処理に苦慮しているとの指摘がある。検査区分を見直し、商品化率の向上を検討する考えはないか。

答 町長 規格外の赤かぼちゃの取り扱いについては、農家各自の対応とし、それぞれの農家で通常の

のカボチャとして販売しています。今後は、今年度の結果をもとに、関係機関と協議しながら品質の高い赤かぼちゃの生産量の増加に向けて取り組むことで、生産者の所得の向上とあわせ、生産者が品質の高い良いものを生産しているという自負が持て

るようにすることで、意欲の向上につながるようにして行きたいと思っています。

答 産業課総括主幹 せっかくつくったカボチャですの、まずはブランドの確立と、それから有効活用に向けてどのようなことができるのか、できる手だてについて検討しながら進めて行きたいと思っています。

『高齢者住宅の雪対策について』

環境づくりに努めていく

問 高齢者住宅の除雪対策は喫緊の課題である。産業建設常任委員会では先進地視察を行い、報告書をまとめた。先行事例を参考に、早急に対策をとるべきと考えるが、今年の高齢者住宅への対応はどうか。

答 町長 町議会産業建設常任委員会の管外視察報告書を拝見しました。長野県栄村の除雪対策は、高齢者等、自力では困難な世帯の除雪を村職員(冬季間雇用)で実施しているもので、当町の社会福祉協議会が取り組んでいる除雪対策事業と類似しているものと思われる。現在、排除雪設備整備事業の対象事業等の拡充を検討していますし、町内の建設業者等と高齢者世帯の除雪対策について話し合うことも予定しています。こうした取り組みによって、

高齢者が安心して暮らせる環境づくりに努めて行きたいと考えています。

問 「道踏み支援事業」。該当者がどれぐらいいるか、つかんではいませんが、今後恐らく増えるだろうと、そういった悲鳴が聞こえてくるだろうなと思われまうので、今の段階でそういった支援策をされるおつもりがあるかどうか伺います。

答 町長 すぐ実現できるかどうかわかりませんが、ただ、今までの人員ではどうしても無理があります。社会福祉協議会ではそれなりの人員を確保しています。町としては地元企業とか建設業とか、あるいはほかの企業に懇談会を通じて、そういうことが可能かどうか検討中です。



町内でも見受けられるようになった(?)
伐採現場

奥高伸議員の 一般質問



『町の振興策に林業は不可欠』

大きな課題として認識している

問 我が町の面積の92%を森林が占めている。しかしその多くはほとんど手入れや管理がなされず山は荒れ放題。有害鳥獣の増加や災害の危険度の増大など住民の生活環境にも悪影響を及ぼしている。今その森林が環境意識の高まりと共に木材が資源として見直されてきている。町にある膨大な森林資源の活用、産業化による職場

づくり、雇用の場の確保と森林・林業が地域振興策の中で大きな役割を果たすと考えているが、考えは。
答 町長 長期にわたる木材価格の低迷等により、林業従事者の林業離れが進んだ結果、森林や里山の荒廃により景観の悪化や鳥獣被害の増加につながっています。また、森林の持つ多様性についての認識の広まりや福島県の進めているCLT製造拠点

整備の計画等、集成材技術の向上を始め、これまでの建築材としての利用のみならず、木質バイオマス利用を含め森林資源の価値が見直されています。森林景観整備に当たっては、森林環境交付金を利用した針葉樹・広葉樹の間伐による整備を実施してきました。また、森林の持つ癒し効果を利用できるよう、遊歩道の整備を実施し、交流人口の増加を目指してい

きます。昨年度は、妖精の小道のある沼沢地内において遊歩道の再整備を行いました。今後は山入地区の癒しの森の利活用についても検討します。林業による雇用の場の確保については、現在、具体的な事業の計画はありませんが、大きな課題として認識しています。
問 原発事故以降、放射性物質の残留の問題によって林産物の取引が制限

されている。現在の状況について教えてください。
答 産業課総括主幹 金山町、南会津町、檜枝岐村の県内で3カ所だけが出荷制限がかかっていません。野生のキノコ等については、毎年モニタリング検査を受けながら販売しているところです。金山町は、これから計画をつくりモニタリング検査を受けながら、販売できる体制を整えていきます。

『公共施設 地区集会所等のトイレ改修を』

必要に応じて対応する

問 町には公民館を始め地区集会所等町民が利用する多くの施設がある。しかし、その施設のトイレの多くは旧和式のもので、特に足腰等に病を持つ高齢者には利用しづらく不満の声を聞く。町はシルバーユートピア高齢者が安

全で安心して暮らせる町づくりを掲げている。トイレは最も身近で最も切実な問題だ。町の考えは。
問 ① 公共施設のトイレ改修（洋式化）の現状は。
答 町長 今年度役場庁舎4階で改修を行うなど随時進めてきました。

問 ② 地区集会所のトイレ改修の現状は。
答 町長 浄化槽の設置や洋式化の対応は数カ所の状況です。
問 ③ トイレ改修に向けた今後の取組みは。
答 町長 公共施設は必要に応じて対応します。地

区集会所は、改修費や浄化槽使用料の地区負担が発生すること、また、小集落については使用頻度により浄化槽の機能が果たせない場合も考えられることから、状況を踏まえ、地区の要望として上がってきた場合検討します。



鳥獣害対策に効果のある電気柵
一世帯4台までの購入補助がある



馬場清次議員の 一般質問

『金山赤かぼちゃ等今後の振興策は』

さらなる品質向上を支援

問 金山町商標登録の「奥

会津金山赤かぼちゃ」今日

までの栽培奨励として堆

肥の助成、品質向上策と

してパイプハウスの購入

者補助、有害鳥獣対策と

して電気柵の購入補助等

の実施を行ってきた。

問① 取組みした実績及

び検証結果、そして今後

の振興策について伺う。

答 町長 昨年度の実績

は、堆肥の購入費補助が7

件、パイプハウスの購入補

助が10件、電気柵の購入補

助が24件となっています。

堆肥の投入は、品質の高低

に影響していると判断さ

れました。今後も堆肥の投

入は指導していきます。ま

た、パイプハウス栽培につ

いては、色つきや形、大き

さの良いものが生産され

ますが、成熟度の高い作物

を栽培するにはパイプハ

ウス栽培においても土づ

くりが重要と判断されま

した。有害鳥獣対策の電気

柵の効果については、大変

有効であると判断してい

ます。電気柵を設置しても

熊の被害を受けた農家に

ついては設置状況を見る

と適切に設置されていな

いケースや、管理が十分に

行われていないケースが

あったようです。今後も

引き続き適切な設置につ

いて指導していきます。

問② 販売対策について、

昨年までの実施内容及び

本年度の対策、そして今

後の取組みは。

答 町長 販売について

は、検査場において品質が

高いと判断されたものに

シールを貼付し、生産者が

それぞれ販売しています。

また、規格外となったもの

についても生産者ごとに

対応しています。なお、昨

年と同様に道の駅奥会津

かねやま、(株)奥会津金山大

自然、JAと連携し、検査場

での販売を希望する農家

については、検査場での取

引を行っています。また、

イベント等による販売対

策は、昨年は生産者協議

会として収穫祭を実施し

ていましたが、今年は協議

会としてのイベントは行わ

ず、個々の農家が軽トラ市

等を実施しています。今後

は、引き続きブランド力の強

化を図るとともに、協議会

を始め、関係団体等と協

議しながら、さらなる品

質向上に向けた栽培技術

の確立と高品質な赤かぼ

ちゃの生産量増加を目指

すことにより、生産者の

所得の向上、後継者の確

保につなげていきます。

問③ 六次化対策の加工

施設、今後の取組みは。

答 町長 どのような施

設整備を行い、何を原料と

した加工商品をつくるか

を検討してきました。当町

の農産物で、ある程度の生

産量が確保できるもので、

なおかつ商品化に結びつ

くと思われる農産物とし

ては、赤かぼちゃだと考え

ています。手始めとして

赤かぼちゃを原料とした

菓子製造施設や総菜加工

施設を整備する方向で検

討していきます。

問④ エゴマ栽培に昨年

実施の奨励補助について、

昨年度の栽培面積、生産

量、販売実績、その補助金

額、これら作物栽培振興

の今後の取組みについて。

答 町長 昨年の作付面

積は約1・7ha、生産者

28名で生産量は約千キロ

です。販売実績は、道の駅



▶町内で販売されている
えごま油

奥会津かねやま、金山町
観光情報センターで販売
しています。エゴマ作付
奨励金は、13名の対象者
に対して39万9300円
を交付し、数量について
は約500キロとなっています。
需要に対して生
産量がまだまだ少ない現
状であり、生産量を増や
すには作付面積の拡大が
必要です。作付面積の拡
大策についても、今後と
も検討していきます。

管外視察報告(要約)

産業建設常任委員会

7月21～23日実施

▶ 広さ40ha、貯水容量180万 m^3 の遊水池の説明をうける。ダム改造と合わせ360万 m^3 の水を一時貯留する工事が行われていた。総事業費370億円



新潟県三条地域振興局における 災害復旧について

「平成23年7月新潟福島豪雨」で、我町と同時期に被害を受け、改修工事を担当している、「新潟県三条地域振興局地域整備部」を訪れました。三条市は主要河川である五十嵐(いからし)川上流に、総雨量985mmと言う金山町を越える降雨があり、主に中上流部で甚大な被害を受けましたが、下流市街地は、平成16年7月の水害以後、改修工事が進んだ事で今回の被害は免れました。今回の降雨の特徴は金山町と同様、降雨量に大きな山が2つあり、2つ目の洪水で河道流量がピークに達し越水したのですが、河川整備計画を策定するにあたり、流量を大きくすると、本支川のバランスが崩れる為、信濃川支川と同程度の安全度を確保する等を踏まえ、「1山目の降雨による洪水を安全に流下させる」事を整備目標としました。①河道改修②上流部の笠堀ダムの嵩上げ③遊水池

による貯留とし、信濃川本川へ合流する計画流量は以前と同様の18000 m^3/s としました。笠堀ダムを4m嵩上げし、洪水調節容量を180万 m^3 確保。更に中流域に広さ40ha、貯水容量180万 m^3 の遊水池を整備し、総量360万 m^3 の水を一時貯留しようとして工事が進められていました。

長野県栄村における 高齢者住宅の除雪対策について

栄村は長野県の最北端部にあり、面積271 km^2 、世帯数889軒、人口2080人、行政区31と、金山町と同規模の自治体です。昭和20年2月12日7m85cmの積雪を記録した、国内有数の豪雪地帯で、平均積雪は3mにもなります。栄村では、高齢化と過疎化により、自力除雪困難世帯が増加した為、昭和52年12月村独自に「雪害対策救助員事業」をスタートさせました。毎年12月15日から翌年3月31日まで、村の「非

た。只見川流域において、金山町上流には遊水池の候補となりうる場所は少なく、五十嵐川と同様の取り組みは困難かと思われるが、ダムの嵩上げや同様の効果が期待される「ダム」の事前放流など、降水をそのまま流下させるのではなく、貯留量を増やし時間をかけて流すことで下流の被害を減らすことは十分に可能だと感じた視察でした。

援員に対しては1時間あたり、「カンジキ」での人力作業は20000円、スノーロータリーの機械作業は27000円の賃金を支払っています。平成26年度は、支援対象83世帯、支援員47名、実質作業時間1529時間、事業費395万円となり、それぞれ増加傾向にあるようです。栄村の高齢化率は48.8%ですが、当町と比較して手厚い高齢者支援策を打ち出しています。金山町においても早急に対策をすべきであり、先進事例を参考にすれば比較的容易に実施可能と思われる。



▶ 栄村議会議長と情報交換
議長は「秋山郷」出身

常任委員会

総務文教常任委員会

6月30～7月2日実施

◀湯沢市議会議長の挨拶を受ける。
常任委員会委員長同席の下担当課
から「地域包括ケアシステム」の
説明を受ける

秋田県湯沢市における「地域包括 ケアシステム」の取り組みについて

秋田県湯沢市は県の最南東部に位置し、人口4万7000人、高齢化率35%ですが、急速に高齢化が進んでいます。私たちは、湯沢市における地域包括ケアシステムについて、地域全体で高齢者を守る取り組み、できるだけ高齢者が自宅で過ごせる取組みを中心に視察を行いました。

湯沢市では、「高齢になっても住み慣れた地域で安心して暮らすことができるまちづくり」を基本理念に、第6期湯沢市介護保険事業計画が実施されており、基本目標として以下の3点を挙げ、部課を越え、オール湯沢として質量の管理と上限管理が行われています。

1. 介護予防・健康づくりの推進
 2. 地域での生活を支える仕組みづくり
 3. 安心できる居住の場の確保
- 具体的には、集落単位でできる介護予防の推進と

して、誰でも、近くで、簡単に！を合言葉とした「地域リハビリ」の活性化。「ささえ愛の地域づくり」を合言葉とした、生活支援の充実。「移り住みのない」高齢期の生活のための多様な住まいと住まい方への支援などの取り組みが行わ

山形県最上町における「最上町 セミナーハウス」について

山形県最上町は県の東北部に位置し、秋田県宮城県に隣接した人口9000人の農林業と観光の町です。私たちは、最上町が管理する『セミナーハウス最上寮』の運営状況を中心に研修を行いました。最上町では、町の発展・振興のために、幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校、さらに大学との連携という一連のシステムが不可欠であり、地域の中で、一貫した教育課程を修了することでの効果は、学生本人のみならず、地域の活性化に無くてはならないと考

れています。特に、認知症の家族へのケアとして、当事者も参加して開催される「ささえ愛懇談会」や、豪雪の冬期間、高齢者が自炊しながら共同生活ができる「高齢者生活支援ハウス」等については、金山町の高齢者対策においても学ぶべきところが多くありました。



▶中学校の寄宿舎を
高校の寮に再整備



▶寮長から食堂兼休憩室
の説明を受ける

して、中学校の寄宿舎として利用されていた施設をセミナーハウスとして再整備し、最上校の生徒が入寮できるようにしました。寮生はアットホームな雰囲気なのか、自立心が醸成され、保護者にも好評との説明がありました。また、寮生と地域との定期的な交流会がもたれ、地域として寮生を見守る方策が取られており、川口高校若桐寮の運営にも参考になるものでした。新庄北高等学校最上校には川口高校同様「福祉コース」が設けられており、生徒以外の一般の人の受講も可能となっている等、学ぶべきところの多い視察となりました。



「安全・安心な町づくりに 只見川総合土砂管理計画の策定を!!」

地球温暖化が原因とされる集中・ゲリラ豪雨が頻発している。気象庁によると梅雨前線が活発化した熊本県甲佐町では6月20日1時間150mmの降雨量（観測史上最大）を観測した。また度々上陸する台風で局地的な豪雨により、人的被害、土砂崩れ、住宅被害が全国各地で発生している。8月30日の台風10号で岩手県岩手町を流れる川が豪雨により氾濫し、近くに設置されていたグループホームの入所者が犠牲になった。5年前のダム災害を思うと他人事ではない。只見川に階段状に設置されている老朽化した発電ダム群は築後60数年経過し、ダムには大量の土砂が貯まっている。滝ダム869万m³（32・2%）、本名ダム799万m³（31%）、上田ダム454万m³（22・2%）、宮下ダム416万m³（20・3%）の堆砂量（率）で、上田ダムでは昨年9月の台風18号による関東・東北豪雨で野尻川から大量の土砂が流入し、33万m³増えた（平成27年度東北電力、電源開発調べ）。ダムに貯まる大量の土砂により川が浅くなっている。また、5年前の東日本大震災による藤沼ダム（須賀川市）決壊、今年4月の熊本地震による九州電力黒川第一発電所の貯水施設の決壊で下流の住民が犠牲になった。ダムは怖い建造物だ。

昨年7月社会資本整備審議会（国土交通省に設置された審議会）は水災害における気候変動適応策として「①、既存ダムの嵩上げや、洪水吐きの増設等による治水機能の増強等を行うダム再生。②、土砂の流出量が増大する可能性があることも考慮し、堆積土砂の掘削・浚渫、貯砂ダムの設置、排砂パイプの設置等のダムの堆砂対策を引き続き推進する。③、気候変動により山間部からの土砂流出の増大の懸念があり、総合的な土砂管理を流域の関係機関が一体となって組織的かつ継続的に取り組めるよう、実効性のある枠組みを構築すべきである。」と答申している。水害を減らす取り組みとして、全国各地で総合土砂管理計画に基づき、ダムの改造等の減災対策が実施されている。

安全・安心な町づくりを目指し、只見川総合土砂管理計画の策定を願う。

（黒川 廣志）

町村議会議員研修会に参加 地方自治を研修

10月31日に、町村議会議員研修会がビックパレットふくしまで行われました。研修会では、「地方創生と地方議会の役割（読売新聞社：青山彰久氏）」と「これからどうなる政局・政治（産経新聞社：石橋文登氏）」について講演が行われました。今後の議会運営に活かそうと県内各地の町村議会議員が一堂に会し、真剣に聞き入っていました。



県内町村議会議員600人余りが参加

ごあんない

次回の定例会は、12月9日ごろ開会の予定です。
一般質問は12月12日ごろとなります。
お気軽に傍聴においで下さい。
○役場1階の受付で「傍聴券」を受け取り
4階の議場においで下さい。

〔発行責任者〕 議長 五ノ井清二
〔編集委員〕 委員長 馬場 清次
副委員長 黒川 廣志
委員 栗城康太郎
青柳ヨシ子
加藤 賢享
次回、金山議会日より
第196号は、2月中旬
ごろ発行の予定です。